

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

Taki Plazaを活用した外国人留学生と日本人学生との交流機会の拡充

国際交流施設Taki Plazaでは、英語・中国語・韓国語・フランス語で気軽に話し合う「多言語チャット」、「2022秋 新入留学生歓迎レセプション」などを開催し、外国人留学生と日本人学生との交流機会を拡充させました。この他にも、Taki Plazaの活用法を学生目線で考える学生団体Taki Plaza Gardenerが主体となり、様々な国際交流イベントを企画、実行しました。

また、留学生がもつ学業やキャンパスライフなどに関する様々な悩みに対して、学生同士気軽に相談できるよう「留学生ヘルプデスク」も開始しました。



〈新入留学生歓迎レセプションの様子〉

ガバナンス改革関連

ダイバーシティ&インクルージョンの取り組みを強化

誰もが隔てなく、学び、働く場を創造し、知的活力に溢れた環境のもと、本学の目的及び使命である文化の進展及び人類の福祉への貢献を実現するため、新たにダイバーシティ推進担当理事を置き、ダイバーシティ&インクルージョンに関するアンケートの実施・分析を行うなど、本学のダイバーシティ&インクルージョンの発展に向けた取り組みを強化しました。

“多様性の効果”を活かし、組織全体をよりよい環境とするため、今後もダイバーシティ&インクルージョンを推進していきます。

ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言

東京工業大学は、誰もが隔てなく、学び、働く場を創造し、知的活力に溢れた環境のもと、本学の目的及び使命である文化の進展及び人類の福祉への貢献を目指し、ダイバーシティ&インクルージョンを強力に推進することを宣言します。



多様性の認識



Team 東工大



人材育成

〈ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言〉

教育改革関連

B2Dスキームの推進

※「B2D」とは…学士(Bachelor)2年生から博士(Doctor)取得/進学を目指す学生のための本学独自の用語です。「早く研究を始めたい!」という学生の声を受け、令和2年度から「B2Dスキーム」の特別選抜を開始しました。

令和4年度は、学士課程2年次生が新たに16名参加し、年度末現在で学士課程2年次16名、3年次15名、4年次7名、修士課程1年次8名までの4学年に渡り、総勢46名のB2Dスキーム学生が在籍しています。なお、令和4年度に修士課程に進学した学生は、8名すべて早期卒業した学生でした。令和5年度からは新しい系が参加することも決まっており、本スキームの基盤は着実に拡大しています。

「データサイエンス・AI全学教育機構」を設置

全国に先駆けて実施してきたデータサイエンス・AI大学院全学教育を、学士課程も含めた全学教育に拡大し、さらに企業や他大学との連携を深めるために、「データサイエンス・AI全学教育機構」を12月1日に設置しました。

データサイエンス・AI全学教育機構は、これまでの東工大におけるデータサイエンス・AI教育分野の経験と実績を基に、(1)学士課程から大学院まで一貫した全学教育プログラムの拡大・推進、(2)社会的課題解決能力を身につけるための企業連携、(3)国内外の他大学への授業配信などの連携、の3つを活動の柱としており、データサイエンスや人工知能の技能をもって多様な専門分野の垣根を越えて、領域横断的に社会的課題を解決できる「共創型エキスパート」人材を広く育成していくことを狙いとしています。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

スーパーグローバル大学創成支援事業外部評価の実施

学外有識者からの助言を得て、本事業のさらなる改善を進め取り組みを強力に推進するため、令和3年度に作成した自己点検評価書を基に外部評価を行い、報告書にまとめました。外部評価委員からは、当該事業での学長の強いリーダーシップと先駆的な取り組みに対して高い評価を受けるとともに、数多くの建設的な助言や提言をいただきました。外部評価の結果を受け、SGU事業終了後の自走化についてもより具体的に検討していきます。

NSTDAとオンラインミニワークショップを共同開催

令和4年7月にタイ国立科学技術開発庁 (NSTDA) と共同でオンラインミニワークショップを開催しました。本学が NSTDA 及びタイ連携大学と運営している大学院プログラムである TAIST-Tokyo Tech の教授陣が講演者となり、研究者同士の交流を図りました。また、広く一般からの参加も呼びかけ、TAIST-Tokyo Tech の情報発信を行うとともに、共同研究創出の機会を提供しました。

アーヘン工科大学とジョイントワークショップを実施

令和4年12月にアーヘン工科大学と Robotics & Health に関するジョイントワークショップをハイブリッド形式で3日間開催しました。本学からは9名の教員が発表を行い、ワークショップでは、今後の国際交流、共同研究に資する有用な意見交換が行われました。

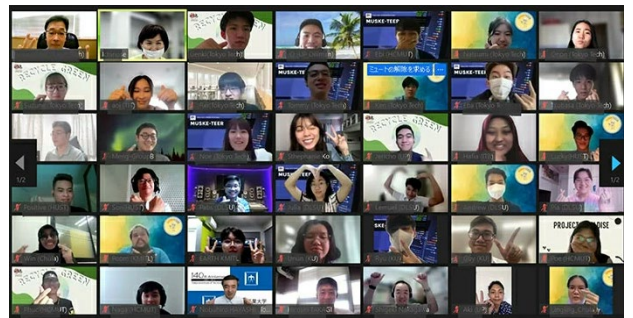
海外蔵前会との連携

令和5年2月に本学の同窓会組織であるシリコンバレー蔵前会を訪問し、本学卒業生と本学の現状や米国における科学技術を取り巻く状況について情報交換を行いました。国内外問わず、同窓会組織を通じたレピュテーション向上にも取り組んでいきます。

【海外の大学との連携の実績】

Tokyo Tech-AYSEAS2022

本学の学生と東南アジアの大学生をつなぐ「Tokyo Tech-AYSEAS (東工大・アジア理工系学生派遣交流プログラム) 2022」が8月29日～9月6日に開催されました。本プログラムは本来、東工大生が東南アジアの国に赴き、現地・近隣諸国の大学生とともに、施設見学、ディスカッション、最終プレゼンテーションを行う10日間の海外派遣プログラムですが、令和4年度は令和3年度に引き続きオンラインでの開催となり、東工大生13名、東南アジアのAYSEASメンバー大学からは29名が参加し、交流を深めました。



〈Tokyo Tech-AYSEAS2022の様子〉

チュラーロンコーン大学との連携

タイのチュラーロンコーン大学と双方の大学への訪問を含む、第7回目の合同異文化課題解決型学習プログラムを実施しました。両大学の学生の混合グループにより、オンライン・対面を組み合わせたグループワーク、施設訪問等を経て、「SDGsに貢献するアイデアの実現に向けて」をテーマに最終発表会を行いました。長年の連携を重ねたことで多様な機会の創出へと繋がり、本プログラム以外でも学生同士の交流の輪を広げることが可能になりました。

提携校とグローバル理工人国内研修を実施

「グローバル理工人国内研修」を実施し、ジョージア工科大学、チュラーロンコーン大学、Lanka Nippon BizTech Institute と本学で合計80名以上の学生が参加しました。本科目は、前述の大学等との交流や国際的に活躍する本学卒業生や留学経験のある本学学生によるキャリアトーク、留学トークのワークショップにより構成されています。

■ 自由記述欄

物質理工学院とアーヘン工科大学の合同ワークショップを開催

本学物質理工学院とアーヘン工科大学は合同で、「未来のバイオデバイス開発に向けた生体材料や生体模倣材料の新たな界面 (Interfaces of Biological and Bio-inspired Materials for Future BioDevices 2022)」と題したワークショップを2月9日にハイフレックス形式で開催しました。

本学は東京医科歯科大学と統合に関する基本合意書を締結しましたが、東京医科歯科大学の研究者からの発表もあり、東京医科歯科大学の教職員を含む多様なバックグラウンドを持つ方々の参加がありました。



〈ワークショップ登壇者および運営を担った学生たち〉